

教育目標
創造 誠実 健康

みどりの学びのエリア
めざす子ども像
(三園小・高三小・高五小・高三中)

令和5年9月6日 第10号 校長 飯塚 正人

高3中だより

- 自ら学ぶ子ども
- 心身ともに健康で思いやりのある子ども
- 規範意識を身につけ自立した子ども



10月 主な行事予定

2	月	全校朝礼 後期時間割開始
4	水	9年確認テスト 収穫物の販売(新高島平名店街)
6	金	9年面接ガイダンス⑥
13	金	9年進路説明会
16	月	生徒朝礼(認証式) 合唱練習始
19	木	6組連合球技大会
26	木	放課後 創造祭舞台司会進行リハ
27	金	創造祭準備・開閉開式リハ
28	土	創造祭
30	月	振替休業日

「長崎平和の旅」は、台風7号の影響で残念でしたが中止となりました。その代替の取組として「都内平和関連施設バスツアー」が行われ、参加した8年生の眞下さんが下記のようにまとめてくれました。

— 平和を祈り続ける心 — 8年 眞下さん

台風が迫る中、開催されることとなった長崎平和式典を、私は緊張して見ていました。なぜならば、とても厳かで大切な式典であると肌で感じたからです。私は、戦争の悲惨さや平和の尊さを事前学習で学びました。その上で式典をリアルタイムで見ること、長崎の式典がいかに重要な意味を持つかを感じました。この貴重な体験を私の住む地域の方々に伝えていくことは、私の使命だと思います。その上で最も伝えるべき大切なことを考えたときに、原爆の恐ろしさや威力を知っている被爆者の方々の声をきちんと聞き、それをより多くの人に伝え、平和の声を繋いでいくことだと思いました。式典の中で私が最も深く心をつかまれたのは、幼い頃に長崎で実際に被爆された方のスピーチです。被爆者代表の工藤武子さんは、「武力によらない平和創造の道筋を指し示し、地球と人類の未来を守るには、核兵器根絶しかない」と強く訴えるべきです」とおっしゃいました。ご自身の被爆体験を恨んだり誰かを責めたりするのではなく、工藤さんは地球と人類の為に私たちに言葉をくださったのです。起こってしまったことを責めるのではなく、理由を求めるのでもなく、ただただ核が無くなり争いが無くなってくれることを切に祈る言葉だと思います。起こってはいけない惨禍であった長崎の原爆投下を経験されながら、工藤さんや長崎の人々は私たちに平和を祈り続けることを教えてくださっているのです。

長崎に行くことができなかった私達のために板橋区では、都内の平和施設を巡るバスツアーを実施してくださいました。その中の昭和館の展示で私が見学することが辛いと感じたものがありました。それは、戦争で親をなくし孤児になった子供たち(戦災孤児は当時全国で約12万人にもなったそうです)と「赤紙」でした。この一枚の紙が、平和に暮らしていた人々を戦場へ連れて行ってしまったのだと恐ろしく悲しくなりました。展示品は見ていて辛いものが沢山ありましたが、私は見なければならぬと思い一生懸命見ました。平和について考えるときに、戦争の悲惨さから目をそむけてはいけません。平和とは、人々が争わず傷つけ合わず、互いを尊重して生活することです。すなわち戦争や核がない世の中だということ、私はこの学習を通して改めて感じました。平和を実現し継続するためには、一人でも多くの方が戦争や原爆の悲惨さを学び、それらを否定していかなければなりません。私は、日本人として長崎の原爆投下について更に学び、平和を祈る心を忘れず持ち続けていきたいと強く思います。このような貴重な体験をさせていただいたことに心から感謝いたします。



みどりの学びのエリア研修会 8/29(火)

午前中は7年生の補習教室に、3つの小学校の先生方も参加し、個別に指導していただきました。午後は三園小にて学びのエリアの研修会を実施し、9年生として必要とされる5教科の「資質・能力」について、小中教員が共通理解を図りました。



補習教室の様子



学びのエリアの研修会

第3回 i C S 委員会 9/2(土)

10月4日(水)に予定しているグリーンショップの「収穫物の販売会」や、来年2月に予定している「3駅作品展示」について検討しました。特にグリーンショップの開催時期や時間、販売物の確保などについて、十分意見を交換しました。



2023年度 全国学力・学習状況調査結果 校長 飯塚正人

全国学力・学習状況調査（以下、全国学力テスト）は、小学6年生と中学3年生の全員を対象に、毎年4月に行われます。今回は例年の国語と算数・数学に加え、英語も出題されました。

学習指導要領は、どの教科等も「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」という「資質・能力の三つの柱」で統一的に整理し、教科横断の学びのみならず、実社会や実生活と関わらせることも求めています。また、言語能力とともに、情報活用能力を全ての教科等の「学習の基盤」と位置付けています。

児童生徒にとっては、普段の授業を熱心に取り組むことが第一です。学校では、ICT機器も日常的に使いながら授業を改善し、これからの社会に必要な資質・能力の育成を目指しています。全国学力テストは、そんな狙いを目に見える形で示してくれるものです。

本校の平均正答数は、下表の最上段に示してあり、調査を受けた129名のうち国語全15問中、全問正答したのは2名で、正答数0問はいませんでした。また半数以上の68名が11問以上の正答でした。数学は全15問中、全問正答したのは6名と多く、正答数0問は1名でした。また半数以上の68名が7問以上の正答でした。英語は全17問中、全問正答及び正答数0問はいませんでした。また約半数の69名が7問以上の正答でした。

表の平均正答率をみると、「全体」で国語・数学・英語の3教科とも全国の値を下回りました。また「思考・判断・表現」は3教科とも上回っていましたが、「知識・技能」をみると3教科とも全国の値を下回っていて本校の課題と言えます。各教科の「知識・技能」や「思考・判断・表現」で正答率が高かったり低かったりした内容も表に示しました。今後の授業では不十分だった点などに取り組んでいく必要があります。

また、小学校からのつながりはとても重要であるため、学びのエリアの小学校とも結果を共有し、今後も小中一貫教育において学習内容系統図を基にした学習面の連携や、小中の教員が義務教育9年間という指導観をもって学習指導を進めていきたいと思えます。

8月1日のある新聞の朝刊には、読書が好きだったり、新聞をほぼ毎日読んだりする児童生徒ほど、成績が良い傾向が示されたとありました。活字に親しむ機会が多い小中学生は、国語だけでなく、算数・数学や英語でも平均正答率が高かったと書かれていましたので、ご参考にされるとよいと思えます。

【学力調査の結果】平均正答数・平均正答率(%)

国語	平均正答数	10.2/15	10.8/15	10.5/15	数学	平均正答数	7.5/15	8.2/15	7.6/15
	平均正答率(%)	高三中	東京都	全国(公立)		平均正答率(%)	高三中	東京都	全国(公立)
全体	68	72	69.8	全体	50	54	51.0		
知識・技能	64.3	70.2	69.4	知識・技能	53.6	58.7	56.7		
思考・判断・表現	70.8	72.9	69.7	思考・判断・表現	42.8	45.8	41.6		

英語	平均正答数	7.5/17	8.8/17	7.7/17
	平均正答率(%)	高三中	東京都	全国(公立)
全体	44	52	45.6	
知識・技能	47.4	57.9	51.5	
思考・判断・表現	40.2	44.8	38.8	

各教科で正答率が高かったり低かったりした 主な内容

「知技」は知識・技能 「思判表」は思考・判断・表現

		正答率が高かった内容	正答率が低かった内容
国語	知技	・事象や行為、心情を表す語句について理解しているか	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているか ・文脈に即して漢字を正しく書くことができるか
	思判表	・目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるか ・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるか ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるか	・文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるか
数学	知技	・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているか ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるか ・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるか	・自然数の意味を理解しているか ・四分位範囲の意味を理解しているか
	思判表	・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に証明することができるか	
英語	知技		・文と文との関係を正確に読み取ることができるか ・疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるか ・「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、まとまりのある文章を書くことができるか
	思判表	・社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるか	・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるか